

事例 1

対象

中学校 第2学年

キーワード

通信販売・売買契約

教科・科目

技術・家庭（家庭分野）C 消費生活・環境

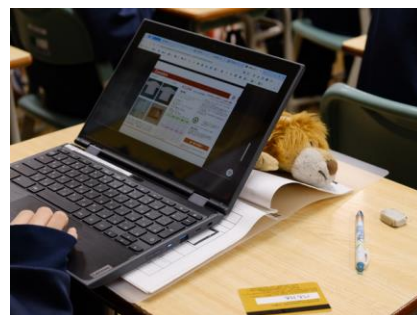
通信販売を利用した消費行動の疑似体験の事例

概要

通信販売における商品購入を疑似体験することで、自分自身の消費行動において、購入したい商品に関する情報収集の不足等の問題点を見だし、持続可能な社会の構築を視野に入れた課題解決に取り組み、計画的な金銭管理や適切な消費行動を実践する力を養うことを目指した取組を実施した。

疑似体験の内容

授業実施前に通信販売における消費行動について生徒の意識を問う事前アンケートを実施し、アンケート結果に基づき、A～Eの5つの模擬的な通信販売サイト（教師作成）を介して、生徒が用途や特徴等に基づき選択した「白いTシャツ」を購入するという活動を行った。この活動を通して、一人の消費者として通信販売を利用した消費行動を体験し、生徒が自立した消費者として適切な消費行動をとるための課題を設定し、その課題解決に向けた解決策について考え、工夫しながら、消費行動の改善に取り組んだ。



成果・課題

- 可能な限り実社会に近い環境で消費行動を体験するために教材等を工夫し、生徒は実体験から学びを得ることができた。生徒によっては意図と異なる消費行動の結果となってしまうケースも見られたが、模擬的な活動であるがゆえに、失敗の中から自らの課題を見だし、その解決のために知識及び技能（消費者として必要な情報を収集・整理し、適切に意思決定を行う力等）を身に付けていくことができた。
- 子どもたちにとって、通信販売は身近なものであり、自立した消費者として消費行動についての問題を見だし、課題を解決するための力を育成するためには、生徒の実態を踏まえた設定や工夫が必要だと感じた。



実践者の声

- 生徒が自らの課題解決のために「自立した消費者として身に付けるべき資質・能力」を意識しながら学習を進める姿が見られ、自らも消費者の一人であるという当事者意識をもちながら、主体的な学びを進めることができた。
- 生徒が、自らの学びが社会（自分の生活）とつながっていることを意識して学習を進められるよう、導入として通信販売における消費行動の疑似体験を行ったが、生徒の主体的な学びを実現する上でも実社会へのつながりを感じられる疑似体験は有意義な活動であったと感じた。

動画で手軽に！授業の様子をチェック！

授業の様子を5分の動画にまとめました。
QRコードもしくは下記URLから動画を読み込んでください。
<https://youtu.be/n8eE2Y18xsl>



単元計画

目標

課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身につける。生涯を見通した生活における消費行動について展望し、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度の育成を目指す。

単元計画 ※ピックアップ授業（詳細は次項参照）

時間数 (時)	学習課題・内容（児童生徒の様子等）
1～3	題材・学習課題 ○自立した消費者になるために、今の自分にはどんな課題があるのだろうか 活動内容 （活動内容）授業前に実施した通信販売における消費行動に関するアンケートの結果と消費行動に関わる社会の現状、通信販売における商品購入の疑似体験を通して、自分の消費行動の問題点を見だし、その解決に向け、持続可能な社会の構築の見方・考え方を踏まえた課題（「購入商品に関する適切な情報収集の方法とは」など）を設定した。 （生徒の様子）リアルな通信販売の疑似体験に取り組むことで、「思っていた色と違った」「サイズが合わなかった」「返品できなかった」などの意図と異なる消費行動の経験を通じて、消費者としての権利や責任、計画的な金銭管理等について理解することの重要性を考えた。
4・5	題材・学習課題 ○消費生活のしくみ（正しい販売方法・支払い方法）とは 活動内容 （活動内容）自分自身の消費行動と現実社会の実情を踏まえながら、売買契約等の学習を行い、生徒が設定した課題の解決の手立てを考えた。 （生徒の様子）家庭生活における収入と支出のバランスや、売買契約における留意点などについて、具体的な消費行動の場面を挙げながら考えることで、その利点・問題点を整理し、売買契約の仕組みや契約の重要性を理解し、消費者被害を防止・救済するために必要な力を身につけることができた。
6・7	題材・学習課題 ○自立した消費者とはどのような消費者だろうか 活動内容 （活動内容）公益財団法人消費者教育支援センターの「消費者アクションゲーム」を体験すること等を通じて、消費行動についての課題解決に向けた知識及び技能を習得し、実践するために必要なことについて考えた。 （生徒の様子）消費者教育支援センターの「消費者アクションゲーム」を体験し、これまでの学習を通じて身につけた知識等をベースに、消費者被害を防止するための方法や行動について考えることができた。自立した消費者にとって必要な知識や情報を収集・整理し、適切な意思決定を行う力を身につけ、実践することに繋がった。
8～10	題材・学習課題 ○「smart consumer」になるためにはどのような力が必要だろうか 活動内容 （活動内容）これまでの学びを活用しながら、自立した消費者として必要な事項を盛り込んだ「消費生活チェックリスト」を作成した。 （生徒の様子）個別に設定された条件を満たす商品購入のアドバイスを「消費生活チェックリスト」のみに頼らずワークシートに記入していくことで、習得した知識及び技能が定着しているか生徒自身で確認することができた。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 - 売買契約の仕組みや契約の重要性、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 - 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	物資・サービスの購入や、自立した消費者としての消費行動について問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入や、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

本時の授業展開

本時の目標

- ・物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定することができる。

本時の展開

時間(分)	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)	○自分たちが回答した通信販売に関するアンケート結果を確認し、通信販売における消費行動について現状を認識する。	・アンケート結果と共に実社会における消費者被害に関する相談内容についての具体例も提示し、生徒が自身と比較することを動機づけの手立てとする。
展開 (80)	○通信販売における消費行動についての疑似体験を通して、契約時の留意点等、商品の実物を確認せずに購入することの難しさを体験する。 ・用途や特徴等を踏まえ、自らが欲しいと感じる「白いTシャツ」をA～Eの通信販売サイト（教師作成）の中から選択し、実際に注文・購入する。 ○購入した商品を確認し、消費行動の問題点を明らかにする。 ・「写真と違う商品が届いた」等の失敗やその要因について考える。	・実際の通信販売利用時における選択 ・購入場面と近づけるために、現実社会に近づけた教材やタブレットPC等を活用する。 ・購入した商品ごとに、グループに分かれる。 ・各グループに商品を届け、商品の状態等の確認を促す。
まとめ (10)	○授業の内容を振り返り、自分のこれまでの消費行動の問題点を把握する。 ・「購入前にレビューを確認することが大事」等の問題点を把握する。	・タブレットPCを活用し、設定した課題とその理由を全体で共有し話し合う活動を促す。

使用した教材



▲疑似体験用のクレジットカードが生徒一人一人に配布される



▲注文したTシャツが実際に届く